

平成29年(2017)5月20日(土)

2016年(平成28年)10月7日(金)

読売新聞

27 地域 通巻 12 版 2016年(平成28年)10月7日(金曜日) 青森 宮 糸井 福

# 余分な木を伐採 林業学ぶ

# 遊



大きな木を切るときは「倒れるぞー」と声がかかる

## 森を育てるボランティア

異常気象が続く昨々、雨水を蓄えてゆつくり川へ流す森の役割が見直されている。そんな森を守り育てるボランティア活動を長年続けてきたのが、「NPO法人森林遊びサポートセンター」だ。森林管理の許可を受けて、青森市樽前山麓の国有林で行われた同センターの林業体験に参加した。「道巻で被害を受けた森を再生しよう」と、1999年に植樹をしたのが始まりです」と理事長の小林文明さん(83)は話す。その時に植えたアカエゾマツやエゾヤマザクラは大きく成長している。しかし、森の中は木々が重なって日光が入りづらい。そこで必要なのが、余分な木や枝を取り除く除伐作業だ。10年単位で植樹・草刈り・除伐・間伐を行い、森の再生に取り組む。午前10時、現地に着き、長靴を履いて軍手をつけ、ヘルメットをかぶったら、のこぎりを腰につけて森林へ。森の中は下草がぼうぼうで、枝やツタが絡み合い、かなり見通しが悪い。最初にベテランスタッフがあてのこぎりで不要な木を伐採する。それを女性や年配者、初心者があてのこぎりで短く切り、脇に寄せていく。チェーンソーがうるさい。大きな木を切るときは「倒れるぞー」と声がかかる。のこぎりを手に、森の中を動き回ると約2時間。全身が汗だくなったもの、そのあとで食べる昼ごはんが、なんともおいしい。午後の作業では、チェーンソーを使わせてもらった。枝を切る力のかけ具合が難しい。作業が終わる頃には、うっそうとした森が、木々の成長に最適な明るく見通しの良い環境に変貌した。都会で暮らす人々が、自然の中で木を育てる機会は少ない。林業の大切さを知る作業は、子どもたちにとっても貴重な体験になるはずだ。(亜細亜おでかけ体験隊 011-221-5396)



おでかけ体験ナビ

森を育てるボランティア

# 遊

## 余分な木を伐採 林業学ぶ



2016年(平成28年)9月17日 体験林業(樽前山麓樹海再生の森)

ひと

## レジャー活動から森づくりへ発展

平成29(2017)年5月20日 第152号

### よみうり ほっ!とニュース

ドライブに良い季節となりました。萌黄色や濃い緑色など、森の微妙な色の変化を観察するのも楽しいものです。そんな楽しみ方ができる丁度よい場所があります。札幌から中山峠に向かう途中、無意根大橋を上つてトンネルを過ぎた左手にある展望所から、札幌岳や空沼岳、漁岳などがつくる美しい森林風景が眺められます(下の写真)。

「これら1万鈔ほどの森は、札幌市民の『水源の森なんです』と森林遊びサポートセンターの理事長、小林文明さんが教えてくれました。森がつくった水はやがて、豊平峡ダムに注がれるのです。

同会は、この奥定山溪と呼ばれる国有林の森づくりのお手伝いをしています。また札幌から支笏湖に向かう国道の右手に広がる国有林、北区茨戸川緑地、野幌森林公園等の各地の森づくりのお手伝いもしています。

「行政任せきりではなく、市民も森づくりのお手伝いをするには意義深いこと」と言葉に力を込めます。

小林さんは元営林署職員で、長年道内各地の国有林を歩いてきました。そのなかで森林は単一の樹種を

## レジャー活動から森づくりへ発展

NPO法人 森林遊びサポートセンター 理事長 小林 文男さん(83)



(右の写真)「水源の森」の展望所から。今時期はトドマツやエゾマツなどの針葉樹の中に、ダケカンバなどの広葉樹の芽吹きが観られます。駐車場あり。小林さん提供

一斉に植林するのではなく、その土地の風土に合った樹種をモザイク状に組み合わせつつっていくことが大切」と痛感し、この考えを1991年の退職後に設立した会のテーマにしています。

当初、同会は、自然観察や登山などのレジャー活動が主体でしたが、少しずつ下草刈りや除伐、植林などの森づくりも行おうように。森遊びを通して参加者の意識が変化していったのです。自然保護活動の理想的な形と言えます。

「樹木を伐ることには、自然破壊」と思いがちですが、小林さんは「森は適正に管理しなければいけません」と言います。若い樹木のためには成長の止まった老木を除去する必要があります。そして、その土地の風土に合った樹種を植林します。必ずしも手つかずの原生林が良い状態とは言いきれないのです。

成長の止まった樹木がそうでないかは、樹木のでっぺんを観るとわかるそうです。「とがっているものが成長途上、丸いものは成長が止まった老木です」と見分け方を教えてくれました。

小林さんは「中山峠方面に出かけた際にはぜひ水源の森で、森の静かな息づかいを感じてみてください」と穏やかに語りかけます。(編集部 環)

読売新聞折込み生活情報紙 よみうり ほっ!とニュース(6月号)に掲載されました。